

インターンシップQ&A

Q1. インターンシップとは何ですか？

A. インターンシップは学生の間に「就業体験」をすることです。アルバイトの目的は「お金を得る」ことですが、インターンシップの目的は「仕事や将来のビジョンに対する意識を高める」ことにあります。現在、自分の抱いていた会社のイメージと、実際に入社してからのイメージが異なる「雇用のミスマッチ」という現象が起きています。インターンシップを通じて会社へ行き、そこで仕事の体験をすることで会社の姿を知ることができます。

Q2. インターンシップではどのようなことをやりますか？

A. インターンシップは大きく以下の3つに分類できます。

- 職場体験型
- 成果追求型
- 選考過程型

「職場体験型」は企業が主体となって、その会社を深く知ってもらうために実施していることが多いです。期間は1日から数週間と短く主に夏休み中に行われます。会社内を見学したり、職場の人と話したり、簡単な仕事をしたりといった内容が一般的です。

「成果追求型」は社会人に最も近い仕事ができます。社員のアシスタントとして仕事全体を見ることが出来たり、営業やマーケティング、プログラマーなど特定の仕事が与えられたりといった内容が一般的です。この場合、期間は数ヶ月から1年と長いのが特徴です。

「選考過程型」はグループを作り、インターンシップ期間中に課題を与えて、最終日に成

果を発表するというのが特徴です。期間は2日から2週間で、春休み中に行われる場合が多いです。

Q3. インターンシップのメリットは何ですか？

A. インターンシップのメリットは、学生のうちに社会や仕事の現実がわかるということと、OB・OG訪問では時間が短いため、社会の一端しか見ることが出来ませんが、インターンシップではさらに深く見ることが出来ます。実際に見たものを通じて、自分がやりたい仕事は何か、自分に向けた仕事は何か、学生生活の間に身につけることは何かなど、「自己分析」をする上で役立ちます。また、会社の人や他大学の生徒と知り合えるので人脈が広がり、社会人のマナーを勉強できたりと他にも多くのメリットがあります。

Q4. どうすればインターンシップに参加できますか？

A. インターンシップの情報は、主に企業のホームページや就職情報誌に載っています。または、大学の就職課に行けばインターンシップの情報を入手できます。最近では厚生労働省、商工会議所主催のインターンシップも

あります。しかし、インターンシップは応募すれば全員が参加できるわけではなく、選考で参加者を決める場合があります。特に大手企業のインターンシップには多くの学生が応募してきます。応募から選考までのプロセスは就職活動の予行練習になるので、参加することだけでなく、応募することも良い経験になります。

Q5. インターンシップに参加する時に気をつけることは何ですか？

A. インターンシップは「参加すること」と「続ける」ことが大切です。機会があれば、複数の仕事を現場を体験してください。比較することで自分に合った仕事、企業の風土などがわかります。そして、参加するからには途中で諦めることなく、最後まで続けることが大切です。企



インターンシップに参加するまでの流れ

1 目的を明確にする

「何のために?」「何を得たいのか?」ということをよく考え、目的を明確にすること。

2 インターンシップ情報をGet!

「主な情報収集先」

・ 神大の就職課 / インターンシップ総合情報サイト / 企業ホームページ / 就職情報誌 / 大学の先輩

※この時にインターンシップ先の企業や、ビジネスマナーの基本について勉強しておくこと。

3 応募 (エントリー)

応募用紙やエントリーシートに必要な事項を記入して応募する。ここで自己分析をしておくとうまい経験になり、就職活動の時にも役立つ。

4 選考

書類審査と面接の対策として、「働く目的」と「自己PR」を明確にしておくこと。

5 実施

企業の一員としての自覚を持ち、与えられた仕事は最後までやりとおすこと。吸収できるものは全て吸収つもりでがんばろう。

6 就職課へ報告

インターンシップ経験を後輩に伝えるため、就職活動の時にも役立つアドバイスを受けるためにも、就職課へインターンシップの報告をすること。

参考資料

「就職ジャーナル」2005年1月号

リクルート発行

業側は学生に様々なことを経験してもらおうと準備しています。「朝早く来て辛いから」とか「思った仕事と違うから」といつて安易に辞めず、そこでしか得られないことを全て吸収するつもりで取り組んでください。



インターンシップ体験談

貿易学科 三橋康弘

僕は2年の夏休みに、10日間の日程で鉄道車両を製造している工場のインターンシップに参加しました。このインターンシップは鉄道車両の仕組みを勉強したり、実際に工場内に行きそこで説明を受けたりと、「職場体験型」の内容でした。この10日間を通じて、私たちが使う鉄道車両には多くの人が携わっていることを知りました。現場の人たちが働くことで、車両が造られ、それを私たちが利用します。これはまさに「働くことが社会貢献に繋がること」を表していると思います。そして、顧客に対しては安全な車両を造らなければならないため、作業には「責任」が伴います。また、私は鉄道車両が自動車と同じく、機械化された作業工程によって生み出されているのかと思っていました。しかし、今でもそのほとんどが人の手による作業であることを知り、とても驚きました。それらの作業には熟練技術者による「職人の技」が大きく貢献しています。今後の大学生活において、私は今回の経験を生かし「働くこと」についてさらに深く考えていきたいと思っています。